

各有分地、逐水草移徙」の一文が、『漢書』「司馬相如伝下」に「昔者洪水沸出、氾濫衍溢、民人升降移徙、崎嶇而不安」の一文が見える。

○官舎…官で建てて、官吏に与える住宅。

▼道真の宿舎は現在の榎社（太宰府天満宮末社）の地にあつた無住の太宰府南館が建てられた。『郷土史事典』（福岡県）によれば、当時、白茅や茨で葺かれた屋根は崩れ、垣根は破れ、井戸は砂や瓦で埋まつていた。手入れをしたがそれでも雨漏りし、着物や書物も濡れる生活であつたという。『菅家後集』「477 詠楽天北窓三友詩」に「古詩何処閑抄出、官舎三間白茅茨」の句が見える。

40 ○修營…修め営む。『漢語大詞典』には、「修建」とある。

○采椽…伐採したままで加工しない、たる木」のことである。たる木は、皮を削らず、茅葺きの屋根はそろえて切らない。このように質素で粗末な建物を指す語となつた。ここは道真の官舎のさまの表現。

岩波古典大系本の底本である尊経閣本では、「松椽」となっているが、他の写本および刊本では「松椽」が「采椽」と記されている。そこで「采椽」について考察する。この「采椽」という語は、中国の古典籍に多く見出せる。例えば

〔韓非子〕 堯之有天下也、茅茨不翦、采椽不斲。

〔史記〕 李斯伝 采椽不斲、茅茨不翦。

〔史記〕 太史公自序 堂高三尺、土階三等、茅茨不翦、采椽不刮。

〔漢書〕 藝文志 茅屋采椽、是以貴儉

〔後漢書〕 漢陰老父伝 昔聖王宰世、茅茨采椽、而万人以寧（注）師古曰、采椽木也、字作椽、